

令和2年度 第2回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 令和3年2月18日(木) 午後3時30分～午後5時00分

会 場 : 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室

出席者 : 市長、教育長、鈴木好美委員、青島美子委員、秋元富敏委員、杉本憲司委員
(出席者6名)

事務局 : 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長、学校教育課長、秘書政策
課政策・行革推進グループ長、教育総務課総務グループ長、担当

傍聴者 : なし

【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

(1) 令和2年度の振り返りと今後の磐田の教育について

(2) その他

4. 閉 会

[協議の主な内容]

(1) 令和2年度の振り返りと今後の磐田の教育について

(冒頭のあいさつ)

市長

2月13日に、ながふじ学府の竣工式があった。自分でも思いを込めた施設だったが、実際に初めて中を見て、想像した以上にいい空間が出来たと感じた。体育館は、空調も完備しているし、災害時など、いざとなったら、避難者にとってはありがたい空間になると思う。竣工式の挨拶の中でも申し上げたが、家庭力も地域力も一時期より落ち、社会の変化も激しいこの時代に、自然な環境の中で、例えば1人っ子であっても、学び舎に行けば兄ちゃん姉ちゃんがいる。幼い頃からその環境で、近所の人たち、地域の人たちが学校内にいても何ら不思議ではないという環境は、抑止力にもつながると思う。たまたま横にいた豊田北部小学校の女の子は、中学生の姿を見て「中学生って格好いいな。」って言った。何となく、これから目指すべきものの1ページが開けたかなと思った。今年の夏には、2校目の向陽中学校区の基本構想と基本計画ができ上がる予定になっているが、一つの道筋が見えたと思う。この1年の振り返りだが、自分自身が八方美人になったら出来ないことが多々あった。そのとき、必ずついて回ったのは、総論賛成、各論反対であった。

先日、幼稚園保育園の園長たちの前で講話をする機会があった。12年前、幼稚園のお迎えは2時、夏休みや冬休みがあるのは当たり前だったときに、延長保育の開始や教育委員会から市長部局に所属が変わるときには、ものすごい抵抗感があった。それを考えると、今は隔世の感がある。みんなが頑張ってくれたからこそ、今がある。

幼保の再編の中で、先生方から、保育園がなぜ民営化になって幼稚園が出来ないのかという質問が出たが、制度を知らないだけで、実は、幼稚園は民間では経営が成り立たない。当時のことを知る園長先生もいるが、豊岡東幼稚園で18人の子どもに対し先生5、6人。40～50人の幼稚園でも同じ先生の数が必要だった。

明日から議会が始まるが、来週、施政方針として、年度当初の予算を計上するとき思いの一端を述べる。いずれにしても、一体校構想は単なる校舎の建て替えではない。向陽学府の一体校は、豊田中学校を基本とした「ながふじ」とは全く違う形態になる。

一体校構想は、まちづくり構想であり、まちづくりとは何ぞやというと、人づくりである。学校も人づくり、地域も人づくりなので、これからの時代、特に欠かせない大きなポイント要素だと思う。いろんなことをバランスが欠けないように、バランス力、総合力ナンバーワンを目指そうとやってきたが、その中で、あえて二つ三つに絞れと言われたら、子育て教育に特化した人づくりと福祉。気のきいた制度設計が出来ていると言われるような市でありたい。

- 市長 この1年を振り返って、お一人ずつ発言をお願いしたい。
- 委員 この1年は、コロナに始まり、いつものことができない1年であった。ただ、不便がゆえに、いろいろなやり方があるという知恵が出てきた1年でもあった。修学旅行にしても行事にしても、子どものためには、何を取捨選択するか、何が重要なのか、何がコアなのか、人と人の関わりをどうするかといったことを、先生方は一生懸命考えてくれたと思う。
教育委員になって、磐田市の動きが少しわかるようになった。幼稚園がこども園になり、民営化される過程を見させてもらう中で、働いているお母さんの多さと保育園卒のニーズの高さを改めて感じた。それがそのまま後々の放課後児童クラブのニーズの高さに繋がって行くと想像できた。何が大事か、社会性を学ぶというか人と人の関わりについて、これからもっと考えていかなければならないと考えた1年だった。
- 委員 コロナで、1年間何も出来なかったというのが実感で、今の状況を踏まえると、本当に今までは当たり前できていたことが、こんなにもありがたいことだったのかと、改めて感じた。
昨日、文科省のオンライン研修会があった。話し合いはオンラインでもできるが、研修はその会合のときだけではなく、研修会場までの道中で聞く会話も研修だったと改めて思った。今後、全部オンラインになっていくのかと思うと何か寂しい気持ちになる。やはり対面して対話をしてこそ、その人の表情や雰囲気、立ち居振る舞いも含めて人間関係ができていくと思う。
先日見たながふじ学府は、夢のような校舎であった。校舎は、子どもたちが勉強するところではあるが、地域の核となる、地域の人が入り出る場所があることから、これからの教育は、地域との連携が大切と感じた。
- 市長 まだ旧校舎が残っているので、運動場整備は、来年度の仕事になるが、運動場は公園に見立ててもいいと思う。地域の人が、体育の時間や部活を見たり、ジョギングしたりすることは、最大の抑止力になると思う。
- 委員 ながふじ学府の内覧会で、小学6年生と中学3年生が挨拶をしてくれた。中学生は、語彙も多くなるし考え方もしっかりしており、本当に3年間でこれだけ違うものかと本当に驚いた。
- 市長 小学生と中学生の挨拶や演奏の場面は、皆大なり小なり感動したのではない。6年の女の子が「中学生、かっこいい！」って言ったのも分からんでもない。
- 委員 私は、3点ほど考えていることがある。

1 点目、今の子どもたちは、我々の子ども時代と違い自由に遊べる時間があまりにも少ないのではないか。東京の放課後児童クラブを視察した際、子どもたちが昔の我々の頃と同じような状況で遊ぶ姿を見て、こういうことが東京の方で進んでいることに驚くとともに、磐田でも同じようなことができるはずと強く思った。そのためには、学校運営協議会や地域に更なる協力をお願いしなければと感じた。

2 点目、2019 年 10 月の台風 19 号襲来で、全国各地で大規模な水害が発生した。プリント配線基板素材において、国内シェア 9 割を誇るメーカーの工場も水害にやられ、弊社も代替品の材料調達や取引先との調整に大変苦労した。そこへ追い打ちをかけるように同年 12 月に自社工場で火災を出してしまった。火災を出した建屋は、主要工程を担っていたので、影響は甚大。半年かけて何とか復旧させたが、まだ今でも影響が残っている状況である。その様な状況下、コロナにて医療業界から特需が入り増産体制を取っている。昨今は、状況の変化が非常に激しく、その都度最適解を見つけていかなければならない。立ち止まっていることは当然許されない。周りの状況をよく見て、色々なところから情報を得て、協力を得て進めていく。よく考え判断し行動を起こすことが、一番大切な力ではないかと感じている。

3 点目、昨日オンラインの文科省研修を受け、その中で教育の情報化というテーマで、G I G A スクール構想を勉強させてもらった。いろいろと話を聞いたが、本当にすごい構想で、これまでの教育を一変させるような大きな構想に取り組んでいくのだと思った。単に子どもたちにパソコンを 1 人 1 台渡すわけではなく、学力もつけさせないといけないし、当然それも使わせなければならぬ。なおかつ、教師と子どもたちのコミュニケーションのツール、保護者との連絡ツールとしても使用していく必要がある。色々なことを考えた上での 1 人 1 台の端末と改めて思った。ものすごく良い取り組みだと思うが、本当にそういう想定のように使いこなすには、相当の力があると思う。教師の負担が増えるような気がするので、反対に心配なところも感じている。

市長 ワクチンについて、厚労省や県を通じて色々な話がある。先週も 3 か月間で 2 度打つ計画を出すよう通知が来たが、物理的に 3 か月で 2 度は打てない。職員は逆算して無理やり計画を作ってきたが、ドタバタしてスタートするよりも、時間が長くなってしまっても確実にやって行こうという話をした。本当に落ちついて確実に、磐田らしく歩いていくっていうことが僕は責任者たち幹部職員の役割だろうと思う。教育分野でもぜひそういう意味で応援してほしい。

委員 私は、教育委員と言う立場を頂き、長いこと教育行政に携わらせて頂いた。教育委員としての振り返りを含め、「想い」を述べさせていただく。今、これからの時代と社会を見た時、大切と思われる 3 つの Key Word に行き着

いた。

1つ目は、アイデンティティー。

「磐田の教育目標」に、“ふるさとを愛し”…がある。私たちが住む「ふるさと」には、父や母そして先人たちの思いがあり、近所隣のおじさんやおばさんの優しさがある。まずは、自分自身の中に「自らのふるさと：根っこ」をしっかりと築くことが大切だと考えている。「ふるさと」は、父母祖先から受け継いだ人としての命の連続（縦軸）、そして、人間としての自然や社会的連携（横軸）の交差する中心に、自分がいる。これこそが、アイデンティティーで、「自らの生存の基盤」を教え自覚させてくれる。私が好きな司馬遼太郎が著わした『二十一世紀に生きる君たちへ』で、“個の確立”を語っている。

2つ目は、ダイバーシティ。

多様性、生きとし生けるもの全てにあり、「互敬」である。この度の“コロナ禍”は、自然界に共生する我々に対し、人類がこれまで為してきた「文明社会」を見逃さずには置かなかった。途方もない長い時間をかけて築き上げてきた自然界のエコシステムを、人類は文明と言う名において、たった200年～300年の中で蝕んで来た。近年、我々に襲い寄せる自然災害や今回のパンデミック等、今までの「非日常が日常化」となって、その歪みを我々に問い返しているように思えてならない。イギリス・J A・ラウリーズ博士は、《Cosmic modesty；宇宙的謙遜》という言葉を使っている。このラウリーズ博士は、ユネスコ憲章の前文にある有名な「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という文言を提案されている。

3つ目は、コミュニティ。

外部と繋がる力だ。親密なコミュニケーションを失った社会・組織・機構・制度は、人間疎外（よそよそしくなる等）をもたらし、社会病理現象を生むと言われている。第二次大戦後、アメリカ社会の特徴を描いたD. リースマン著『Lonely Crowd；孤独な群衆』を思い出す。「コミュニケーション」と「コミュニティ」は、同じ語源から来ている。Communityは、そのようなコミュニケーションが頻繁にあって初めて成立する共同体なのではないかと思う。

今、本気になって教育界が変わろうとしている。この時期に、教育行政に携わって来た事の「責任の重さ」を実感している。残された3ヵ月、私にとって、私らしく、教育委員として、思いをもって務めて行きたいと考えている。

教育長

先般、「ながふじ学府」竣工式があつたが、各部署、各場所全てに思いがこもっていて正直現実のものとは思えない状況だった。この6年間、担当者は本当に良くやってくれた。先ほど委員が「心の砦」という話をしたが、ながふじ学府の場合、学校の周りに、ほかの地域との境目がない。これが、見学者が一番驚くところだと思う。

また、ながふじ学府は、子どもが対面をして育つことを狙っている。だからコミュニケーションモールが真ん中にあり、地域連携室や図書館、給食共同調理場、ランチルームもそこにある。今後、対話・対面、それをどういうふうにしていくかが課題である。

状況の目まぐるしい変化の中で、自分自身に、何を判断基準にしたのかともう1回捉え直す機会ができたのではないかと思う。委員からGIGAスクール構想について話があったが、これから日本の教育が一気に変わると思っている。この構想では、ただ単に問題を解けるようになればいいという訳ではなく、端末を持つことによって、人間としての資質も変わるよう学校教育ではやっていかないといけない。3月末までに9,571台、ソフトバンクから端末が納品されることになっているが、端末導入後の学校現場も子どもたちも信頼しているので、活用については全く心配していない。子どもについては、タブレットを自由に持って行かせて、遊ばせてもいいと思っている。持って帰ってつぶしたらどうするのかとか、はじめに決まりを作った方がいいのではないかといった意見もあるが、まずは触らせることが大事だと思う。

今年は、コロナ禍に加え、学習指導要領が大幅に変わり、さらにGIGAスクール導入で大変ではあるが、学校現場も子どもも信頼しているので問題はない。そういう信頼の中で、教育が展開できていくと考えている。

市長 人はいろいろな要素を持ち合わせており、人それぞれである。だが、人は、使命感を持ちつつ大変な仕事をやった後というのは、それは達成感に変わり、かつ、間違いなくたくましくなっている。この点はうまく見極めないといけない。

一体校は、まだ1パターンだが、でき上がったので、これを活用するのは良いことだと思う。

どの世界でも100%ということはないが。職員は変わってきている。使命感を持ってやるようなタイプが増えてきたし、建前よりも本音ということができる職員が多くなってうれしく思っている。こういう人を見る力を養わないといけないのも職員の必要な要素だと思う。

残りの時間は、自由懇談の時間にするので、教育委員さん、ご意見をどうぞ。

委員 これから、学校関係者や教育関係者から視察の依頼が来ると思うが、できるだけたくさん受入れてほしい。やはり、実物を見ていただいたコメントや意見は貴重である。色々な意見を全て吸収して、次の学府のときに活かして行ってほしいと思う。

市長 今の委員のご意見は、大事なことだと思う。学府もあと9つある。学校教育課長、何か見解はあるか？

学校教育課長 自分たちが良かれと思ってやっていることはたくさんあるが、やはり一度は

外から見てもらわないと、本当に独りよがりが終わってしまうことが多々ある。一体校についても、磐田の思いを見てもらう中で、視点を変えた見方や意見を得られれば、次に活かしていくことができると思う。他の学区の子どもたちがあれを見たら、どういう感想を持つのかと、今、想像しながら聞いていた。

市長 知らない人がぱっと見ると、簡単に出来たように思える。あの建物は、建てる時、基礎部分を固めるのにかなり時間がかかった。それが見えないからである。議員時代に一貫教育の研究だけでもしてくれないかといってからずいぶん経つ。ただでさえ忙しい中で、また余分な仕事がふえると思う先生方がいても当然。それをよく乗り越えて、今日まで来たというのが感無量だった。

前任の教育長のときに、一貫教育の研究の話を切り出した。2年間の研究の結果報告があったときに、美辞麗句ではなくて効果の方が圧倒的に大きいというところからスタートしている。今は、心待ちにしているエリアがものすごく多くなってきている。無理せずに最大限検討してほしい。

委員 内覧会の際、視察に行くと何人かに言われた。

市長 一体校は、小規模校を数校統合するのがノーマルだが、ながふじは過疎地でも何でもない。歴代2人の教育長が頑張ってくれたおかげだと思う。あれだけのハードルがあっても、みんなで力を合わせればできるということも示せた。

委員 一体校で視察に行ったときに、小中学校がただくつつただけの学校もあり、他にもいろいろなやり方があった。

その中で、磐田は、どういう形をつくっていくのかというベースが、ながふじになるので、先生も子どもも、イメージ出来ず戸惑うと思う。本当に何もかも、全ての常識を変えていくそのエネルギーは、すごくかかると思うが頑張してほしい。

市長 学校教育課長、何かコメントは？

学校教育課長 今年度、教育委員会に来て、1年を振り返ってみても、あまり思い出せないぐらいあっという間だった。このコロナ禍を大変と思うか、それをチャンスと思うか、どう思うかというところが、1番大事であって、子どもたちにとっては楽しみしかないと思う。

それを担う教師のプレッシャーを、どう楽しみに変えていくかというのが教育委員会の仕事であり、そこに赴任する校長・教頭、管理職の力だと思う。いかに職員が楽しみだと思い、最初の1, 2年のスタートを乗り切ったとき

の職員というのは、すごく強くなっていると僕は思う。すばらしい職員が今度またそこからまた巣立って、磐田市内の学校に行くと思うと、自分は楽しみである。

市長 何事もスタートが大事。

委員 最初は、すごく皆、もう希望に燃えてと、全然心配していないが、慣れてきたときに、9年間、だらだらだらだらいくっていくのをすごく心配している。同じところへ9年間通うわけなので、はじめをどこでつけていくかが課題だと思う。この学年はこういうことをするという学年の役割を決めて行ったほうがいいのではないかと思う。私は、慣れた頃など先を心配している。

市長 学校教育課長、何かコメントはあるか？

学校教育課長 ながふじ学府では「志カリキュラム」を考えているが、私も経験したことがないので、実際のところどうなるかはわからない。ただ、全国には小中一貫校はたくさんあるので色々と研究をしながらも、現状を見ながら、臨機応変に1年振り返り、作り上げていこうと考えている。その場合でも、子どもたちの内部評価と第三者の外部評価を大事にしつつ、教育委員会としても一緒に頑張っていきたいと思う。

教育長 色々な意見をいただき、本当にありがたいと思う。心配な材料もあるが、先ほど話題に出た「志カリキュラム」は、ながふじ学府でしか作りえなかったカリキュラムである。ながふじの建設工事を見るというのは、子どもが外部から受ける勉強だと思う。ながふじ学府は、本当に新しい側面、多機能新カリキュラムを持つ多機能型学校である。そこから、多機能を生み出す、多機能がいかに子どもにとって成長に役立つことかということ、創り出す創造性が必要になって来ると思う。

市長 市長になったときの最初の訓示、思いというのが、「全般にわたっての改革はまず市役所から、改革推進は市長・職員から」ということで、のろしを上げてやった。困難事例があったとしても、そこに人がいれば何とかなるということは、経験上、いくつか体験している。大変なことが起こったとき、非常時のときに人は育つ。頭角を現す。求人難のとき、新しいところで勤務するとなると、来る人はものすごくいい思いで来る。そこで、ゼロからやってみたいという思いを持つ選ばれた人たちがスタートを切ってくれたおかげで、組織運営がうまくいっている。ぜひ、先生方を良い意味で、刺激を与えながら叱咤激励をして、育ててあげてほしいと思う。児童生徒が感化されるのは、親の次に先生要素が多い。私は、本当に財政がガタガタな状況で市長職を受けた訳だが、そういう状況

だったからこそ手を挙げた。私が退任するとき、同じようなことは絶対すまいと思っていた。今、磐田市では、御厨駅が完成して、ながふじが完成して、大きな事業を続けてやっているが、先日、裾野市が緊急財政危機宣言を出した。信じられない。今の状況であと2年間やると、その後はもうアウトという状況なので宣言を出した。

それらと比べると、お金かかることは防潮堤など多少待っているが、大きな方向性としては、この一体校になる。幼稚園だけで23園、保育園を入れて公立だけで30数園あった。小中学校で33校あった。それが、ほかの事業がほぼ整理整頓されたので、あとは、みんなで磐田丸は、一体校イコールまちづくり構想っていう形でやっていけばよい。確かに毎年は出来ない。できないが、少なくとも2校目までは視野に入っているとすると、財政運営は、まかり間違えることがなければちゃんとできるはずである。

ただし、誘惑に駆られて放漫経営をしたら、すぐにダメになる。地味だが、財政運営は大切。大阪の堺市や磐田と同規模の埼玉県新座市も緊急宣言を出した。これはコロナではなく財政危機に伴う宣言である。

こうしたことを考えると、あれもこれもではなくて、一体校構想はまちづくりと捉える。だからこそ地域も期待する。校舎の建て替えだけであれば、教育委員会の仕事になるが、そうではない。「人づくりはまちづくり、まちづくりは人づくり」という基本的なコンセプトを職員が持っていれば、やってくれると思う。

役所も先生方も、お互いに人間を磨いて、誰のために、何のために自分たちはあるのかということをお互いに自問自答しながらやっていけば、磐田市は、まだまだ飛躍的に伸びると思う。職員の変わり方は、急激に今日撤入れて明日変わるというものではないが、やはり顔・表情である。

今、ワクチン対応班が、にこっと2階の1番奥の部屋にいるが、先日見に行ってきた。すると、にこっとの職員たちが応援に来ていた。そのあと、にこっとの事務所に立ち寄ったところ、自分たちも立ち上げのとき、みんなで応援してもらったからということだった。いい循環に回っていると思う。こういうことがもう当たり前の風土になりつつあるということは、役所の伸びしろを期待できるころだと思う。

私は、来週から「最後の授業」というのを、中学校と小学校でやることになっている。この名前は、教育長が名付けてくれたが、結構楽しみにしているし、僕自身も人に感化されて、育ってきたので、皆さんの力で出会いと機会を作っていけばいいと思う。可能性はいっぱい秘めているので、家庭環境は今が悪いからずっと悪いかどうかは、そんなことは誰も保証はないが、世の中は近視眼的になりつつあるので、そうしたときに、側に励ましてくれる人、信頼できる人がいる・いないに、大きな違いが出てくると思う。頑張って全精力を高めて磐田の教育のために、よろしく願います。ありがとうございました。